

かゆい戸所に  
手がとどく //

# 保育現場の「超」具体的安全戦略!

## 第6号

### 「落ちた時の危険」は、 どこにある?



未就学児施設で多い事故の一つは「落ちる」です。でも、「落ちる=高い所から地面に落ちる」だけだと思っていませんか。落ちる途中でぶつかったりひっかかったり、落ちたまま動けなくなったり…。今号は、環境や活動の中にある「落ちた時の危険」を探しましょう!

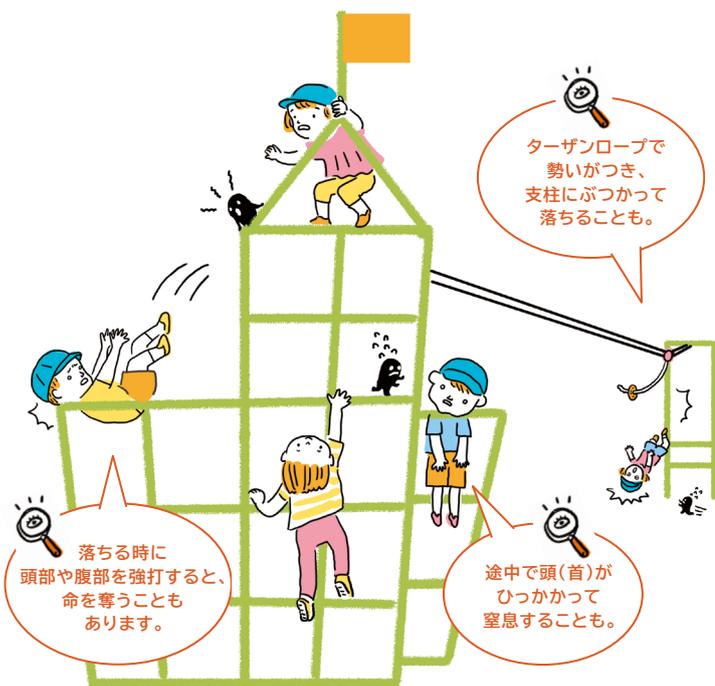
所 真里子

日本子ども学会常任理事、ISOガイド50(子どもの安全の指針)JIS原案作成委員会委員、保育の安全研究・教育センター設立メンバー。家政学修士(日本女子大学)。子どもの安全の専門家として研修講師、調査研究等を行っている。



#### 落ちる+ぶつかる

たとえば、ジャングルジムの中を落ちたら、鉄の棒に頭や体を打ちつけます。すべり台やのぼり棒、たいこ橋等で構成されている複合遊具も同様です。ターザンロープで勢いがつき、支柱にぶつかって落ちることも。頭部や腹部を強打すると、命を奪うこともあります。途中で頭(首)がひっかかって窒息することも。



#### 落ちる+崩れる

子どもには、「不安定だから危ない。落ちたら痛い」という因果関係の考えがありません。登る意思はなくても、手や足を繰り返してあげていけば、いつの間にか高さのある場所にいます。絵本棚、おもちゃ箱、重ねた折りたたみテーブルなど…。そもそも人が乗ることは考えられていない物ですから、倒れたり崩れたりします。すると、落ちてきたものが体にぶつかったり、倒れたものの下敷きになったりもします。



【このような事例で亡くなった子どもも複数います】

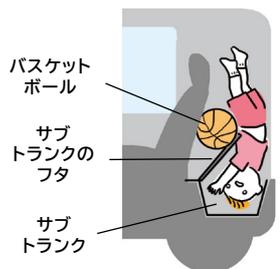
#### 落ちる+動けなくなる

子どもは狭いところに入るのが大好き。そういう場所をつくったり探したりします。たとえば、積んである跳び箱の枠によじのぼって中をのぞいたら…。頭から落ちるかもしれません。空間が狭いと、逆さ吊り状態で動けなくなることもあります。また、部屋の隅で、奥のほうにしまってある玩具を取ろうと無理な姿勢になり、頭から落ちることもありうるでしょう。



#### 【過去の死亡事故】

小学生が車の後部座席からサブトランクにあったボールを取ろうとして逆さになったまま動けなくなり、心肺停止状態で発見された。首に体重がかかったことにより息ができなくなったと推定される(2017年)。



#### 子どもが落ちたら?

自分で立ち上がろうとしない時、動けない時は、(その場所がとても危険でない限り)動かさないで、すぐに119番。抱き上げたりすると、損傷を悪化させる危険もあります。

#### 次号予告

7号と8号では「落ちる」の予防を考えていきましょう。来月まで待てない? では、今日からできるヒントをひとつ。「落ちる」は防ぐのが難しくても、「登る」を防ぐことは簡単だったりしますよね!

